

飛騨山岳会の歴史

2004.8 作成・2008.9・2011.11 改訂（木下編）

時代区分	飛騨の山と飛騨山岳会	日 本
	（天長 5（832）白山の三馬場＝加賀・越前・飛騨が開かれる）	山岳崇拜 縄文時代 弥生時代 修験道のはじまり（役小角） 吉野山、大峰山 諸峰開山の伝説 立山、白山、御嶽山、羽黒山 富士の登山 信仰登山の発達 戦略上の登山 ザラ峠、安房峠、大門峠 諸藩の山林巡視と採葉登山 加賀藩奥山廻り 北辺の探検と測量 間宮林蔵 松浦武四郎 文人・墨客の登山 橘南谿 菅江真澄など 宗教登山の普及と講中登山 富士山 御嶽山
中 世	永正 15（1518）武蔵国の僧が笈ヶ岳の山頂に経筒を奉納	
近 世	延享 1（1744）高山長谷川代官 乗鞍岳の雷鳥を将軍に献上 天明 2（1782）南斎禅師ほか、笠ヶ岳に登頂 文政 6（1823）播隆上人、笠ヶ岳に登頂 文政 11（1828）播隆上人、槍ヶ岳に登頂 天保 12（1841）高山地役人山崎弘泰、白山登山 登山記「山分衣」著す	
近 代	M12 アトキンソンら平瀬から白山へ M17 ウイリアム・ガウランド日本アルプスの命名 M21 原田豊吉「日本地質構造論」で飛騨山脈の命名 M25 ウェストンら乗鞍岳 M26 陸地測量部が前穂高などで測量 M27 ウェストン穴毛谷から笠ヶ岳へ登頂 無尽秀全乗鞍や御嶽へ M32 上牧太郎之助青屋から乗鞍岳への道開拓 M39 乗鞍岳で大量遭難 M41（1908）飛騨山岳会設立 M42 会員が白山、硫黄岳（焼岳）、笠ヶ岳に登頂、「山岳」に発表 M43 乗鞍岳、御嶽山等に登頂 御嶽、白山の実測図作成 T2 二木長右衛門が札幌農学校（北大）から飛騨にスキーを伝える T3 小島烏水を招き高山町役場で山岳講演会を開催 T3 小島烏水の双六谷遡行に会員中野善太郎同行 T4 会員中野善太郎がガイド今田由勝と奥穂高岳から西穂高岳初縦走 T8 歌人福田夕咲を中心に 14 名が「山刀倶楽部」を結成 T10「山刀倶楽部」メンバー双六谷遡行、その後飛騨山岳会再建活動のため発展的解散（T12～S6 飛騨のガイドたちが活躍） T12 飛騨山岳会再設立（会長 高山町長直井佐兵衛） 榎有恒を招き、記念山岳講演会を開催 （T13 篠原無然遭難死）（T14 今田重太郎 穂高小屋を新設） （T14 関西 R C C の藤木九三らが滝谷初登攀 斐太中学山岳部創設） T15 乗鞍、笠、槍穂へ募集による団体登山を実施 （T15 穂刈三寿雄 槍ヶ岳に肩の小屋を新設） S2 秩父宮殿下、穂高岳、笠ヶ岳縦走登山のあと高山へ 山岳会で歓迎 ▲乗鞍岳西面開拓時代 S7～大尾根スキー場開設、乗鞍西面を開発 山小屋 4 軒を所有 以降四季を通じ乗鞍登山が盛んになり、当会のホームグラウンドになる S14 会報「山刀」創刊 S18 飛騨スキー倶楽部と合併 戦局の悪化とともに活動は衰退	在留外国人の登山 ガウランド、ウェストン 日本人の学術登山 測量登山 陸地測量部 M12 赤石岳、M40 剣岳 趣味の登山 M27 志賀重昂「日本風景論」 △日本アルプス探検登山時代 M38（1905）日本山岳会設立 新天地の開拓 探検登山黄金時代 明治 42 年剣岳や槍穂高縦走の縦走でピーク 登山の普及 地図の発行 積雪期登山とスキーの渡来 M44 レルヒ
	▲乗鞍岳西面開拓時代 S7～大尾根スキー場開設、乗鞍西面を開発 山小屋 4 軒を所有 以降四季を通じ乗鞍登山が盛んになり、当会のホームグラウンドになる S14 会報「山刀」創刊 S18 飛騨スキー倶楽部と合併 戦局の悪化とともに活動は衰退	△アルピニズムの勃興 T7 鹿子木員信 ヒマラヤタルン氷河へ T10 榎有恒のアイガー東山稜登攀 日本におけるアルピニズムの誕生 T12 松尾峠の遭難事故 T13 R C C 結成 岩登りと積雪期登山の発展 厳冬の登山 バリエーション・ルートの開拓 S6 滝谷、前穂東面、屏風岩開拓 S2 長谷川伝次郎 カイラス一周 S3 大島亮吉 前穂北尾根 4 峰で遭難死 S4 山岳雑誌「山と溪谷」創刊 S7 登歩渓流会など社会人団体が谷川岳へ S10 加藤文太郎北鎌尾根で遭難死 S10 立教大 ナンダ・コート登頂
現 代	S21～24 戦後復興期 スキー倶楽部と分かれ、3 日会メンバーを中心に山行活動の活発化をはかる （S25 小池新道開通） <u>S25 岐阜県山岳連盟結成（当会会長平田誠二が初代会長に）</u> ▲笠ヶ岳、錫杖岳開拓時代、 S31～35 笠ヶ岳東面穴毛谷開拓（第 1 岩稜はじめ数々の初登攀） S34 第 1 回「山刀祭」原山スキー場にて開催 S40 岐阜国体山岳競技が槍、穂高で開催され協力、当会から監督選手 S42～44 錫杖岳冬期開拓（第 1・3 ルンゼなど初登攀） S44 岐阜岳連隊アラスカ・ローガン峰に登頂 当会から隊長 S45～ 笠ヶ岳西面笠谷などの踏査を開始 ▲海外登山と広域山行時代 韓国雪岳山（S47・48）アラスカ・ブラックバーン峰（S48） ネパール・ナヤカンガ峰（S50）など S50 笠ヶ岳、錫杖岳の活動が評価され、「山溪登攀賞」を受賞 S55 <u>創立 70 周年</u> 記念式典 笠ヶ岳集中登山 ・玉山登頂（S54） インド・メルー北峰初登頂など S58 第 27 回全国高校総合体育大会登山大会に協力 S59 第 1 回市民登山実施 乗鞍岳 S63 <u>創立 80 周年</u> 記念式典 乗鞍岳集中登山 道標設置など H4 天山山脈ポベード峰、ハンテングリ峰に登頂（会主管） H10 <u>創立 90 周年</u> 記念式典 国境の山集中登山、『飛騨国境の山』出版など H20 <u>創立 100 周年</u> チベット・モンタカンリ峰初登頂（H19） 記念式典 講演会 写真展 笠ヶ岳集中登山 『飛騨百山』出版など H22 チベット ダ・カンリ峰初登頂（会後援） （注）国内登山は個人山行を除く、会主催の特筆のもののみ記載 海外登山は岳連、会主催、主管のもののみ記載	S26 重太郎新道開通 S28 日本山岳会第一次マナスル登山隊 S30 前穂東壁ナイロンザイル切断事故 S31 日本山岳会隊マナスル登頂 △登山ブームと大衆化時代 S40 群馬県遭難防止条例 S40～42 アイガー北壁などヨーロッパアルプスへ日本人クライマー S41 富山県登山届出条例 S42 富山千寿ガ原に文部省登山研修所設置 S42 松本深志高校生、西穂独標で落雷遭難 S45 日本山岳会隊エベレスト登頂 S46 さわがに山岳会 梅海新道開拓 S50 日本女子隊エベレスト登頂 S55 ヨセミテからフリークライミング S57 日本山岳協会隊 K2 登頂 S60～百名山・中高年登山ブーム到来 △アルピニズム的登山が減少し、山行方式の多様化時代 <参考文献> 山崎安治「日本登山史」 安川茂雄「増補近代日本登山史」ほか

